

コミュニケーションの手法

コミュニケーションは様々な場面で実行でき、育成することが求められる。

外国語教育では、4技能の育成と共に、コミュニケーションする力の育成は重要なことである。

新学習指導要領では、話すことが「やりとり」と「発表」に分けて育成することとなり、コミュニケーションは場面に応じて力をつけることが必要となる。

日常生活において会話はいつも行われているため、外国語の習得でも「やりとり」はとても重要で、必要な技能である。

外国語を話す技能があったとしても、やりとりを続けることができないとコミュニケーションが成立しないことがある。外国語の力をつけることと共に、やりとりできる力が求められる。

では、どうしたらやりとりができるのか。先日、外国人から、やりとりには次のようなことが大切であることを教えてもらった。それは、

① React

② Repeat

③ Question

である。

例えば、

A : This is my father.

B : Oh cool! … ①

He is your father. … ②

What job does your father did? … ③

このルーティンでやりとりができる。自然にこんなパターンができるように訓練が必要であろう。

次に「発表」であるが、一例を紹介する。

日曜日に「米国が最も恐れた男」というドキュメント映画を見てきた。

戦後、沖縄県民は、米軍基地闘争や本土復帰闘争を不屈の精神で行ってきた。この指導的立場にいた男が、この映画の主人公「瀬長亀次郎」である。

彼の演説会には、10万人規模の民衆が集まったようだ。

彼は、

- ・笑顔、親しみがある
- ・方言を使い親しみがある
- ・難しい内容でもわかりやすい言葉の使用

により、聴衆は理解し納得して帰宅したそう。

彼のキャリアの最後は、本土復帰後初めての沖縄県選出代議士である。

当時の佐藤栄作首相とのやりとりは一見ある。

瀬長の主張だけで日米の課題は解決できないが、首相もノー原稿で当時日本ができることを瀬長に説明している。

さて、教員は、子供・保護者・教育関係者とさまざまな立場とのやりとりを日常的に行うすごい職種である。言葉を使い分けて説明し、やりとりすることが求められる。

今、子供の指導が重要視されているが、実は、我々自身のコミュニケーションの力が問われているのかもしれない。